

東京2020大会の都立競技会場整備における アクセシビリティに関する東京都の取組について

～障害のある方や学識経験者が参画したアクセシビリティ・ワークショップ～

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

東京都は、東京2020大会に向けて、都立の11競技会場の整備に当たり、組織委員会が策定した「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」を踏まえるとともに、大会後の利用を見据えて、誰もが使いやすい施設にすることを目指し、障害のある方や学識経験者などからなる「アクセシビリティ・ワークショップ」を設置した。そこで、様々な項目について、検討を実施し、出された様々な意見を踏まえて整備方針を取りまとめ、その内容を反映し、新規施設の整備や既存施設の改修を進めた。

新規施設については、令和2年2月に東京アクアティクスセンターが竣工し、既存施設については、同年5月に東京スタジアムの改修工事を終えたことで、都立の11競技会場の整備が完了した。そこで、競技会場完成までの過去4年間にわたる都の施設整備におけるアクセシビリティの取組の概要を参考のため取りまとめた。

1	東京都が整備した競技会場		1
2	Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン		2
3	アクセシビリティ・ワークショップ		3
4	アクセシビリティ・ワークショップ委員		4
5	開催状況		5
6	検討経緯		6
7	検討結果のまとめ		9
8	検討事例(1) 車いす使用者席・同伴者席、優先席		20
	検討事例(2) トイレ機能の分散配置		23
	検討事例(3) サイン計画(大きさ、書体、ピクトグラム等)		26
	検討事例(4) その他(観客席、トイレ、建物出入口等の詳細)		29
9	競技会場の概要		32

1 東京都が整備した競技会場

東京アクアティクスセンター



有明アリーナ



海の森水上競技場



新規施設

既存施設

カヌー・スラロームセンター



大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場



夢の島公園アーチェリー場



有明テニスの森



東京体育館



東京辰巳国際水泳場



東京スタジアム



武蔵野の森総合スポーツプラザ



2 Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン



【発行】

公益財団法人

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

【発行年月日】

平成29(2017)年3月24日

【概要】

○組織委員会がIPC(国際パラリンピック委員会)の求めに応じて策定する、大会運営におけるハード・ソフト両面のバリアフリー化を目的とした指針

○平成26(2014)年11月に、国、都、組織委員会共催で「アクセシビリティ協議会」を立ち上げて以降、3つの部会を設け、20にわたる障害当事者団体等の意見を聞きながら策定

＜参考＞ダウンロードページ

<https://tokyo2020.jp/jp/organising-committee/accessibility/>

3 アクセシビリティ・ワークショップ

○ 概要

東京2020大会で使用する都立競技施設については、「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を適切に反映することに加え、障害のある方がより利用しやすい施設となるよう、設計段階において、障害当事者の方や学識経験者等から直接意見を聴取するため、アクセシビリティ・ワークショップを設置（外部委員9名及び東京都職員で構成）



大会時だけでなく、大会後の利用も見据えて、障害のある人もない人も含めた全ての人にとって使いやすい施設を残すことを目指す



<第5回ワークショップ 現場視察（東京体育館）>



<第7回ワークショップ>

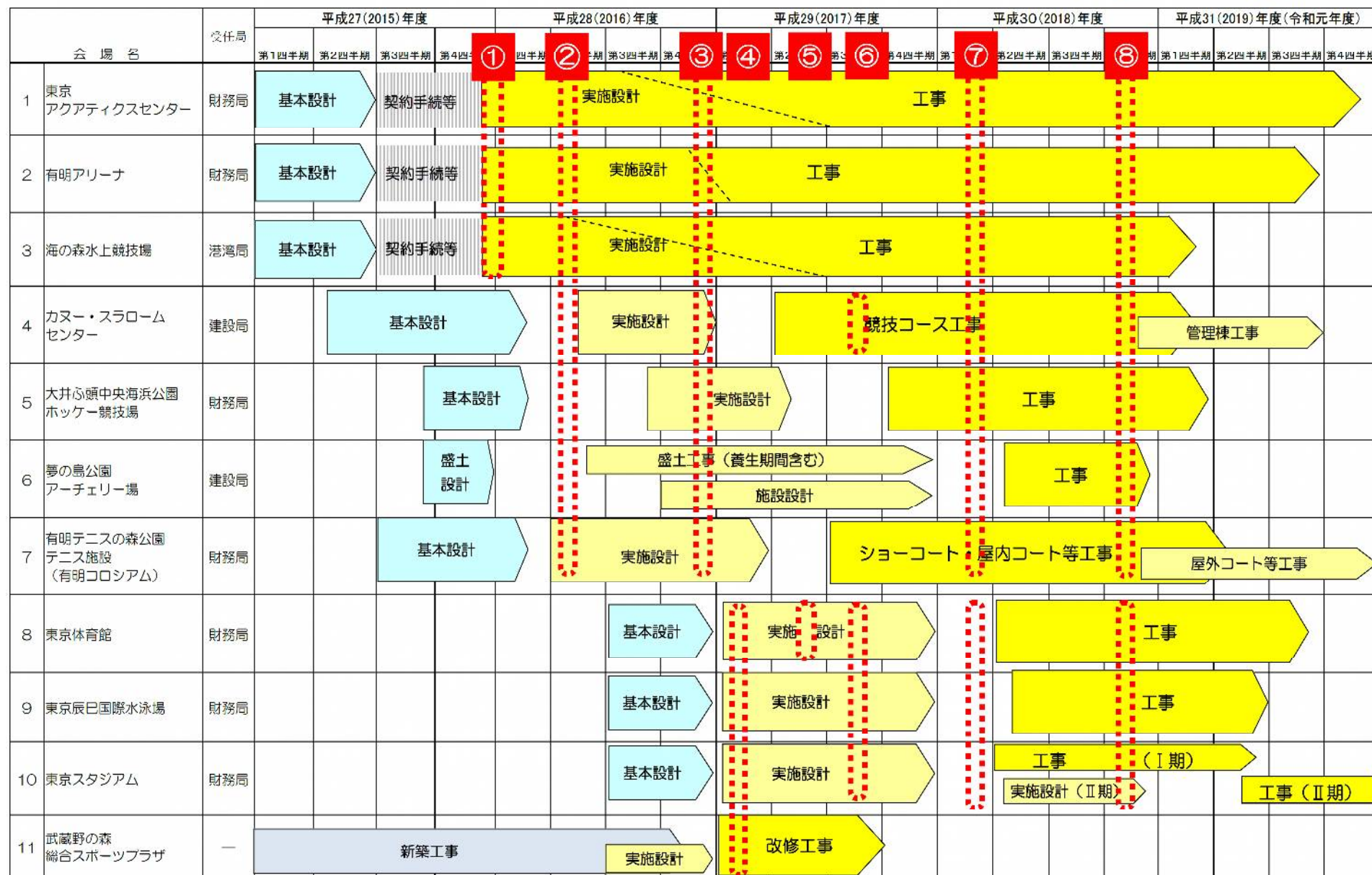
4 アクセシビリティ・ワークショップ委員

	氏名	所属
障害者団体 (東京都福祉のまちづくり推進協議会)	市橋 博	障害者と家族の生活と権利を守る都民連絡会 会長
	越智 大輔	公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟 事務局長
	吉田 美奈子	公益社団法人 東京都盲人福祉協会 副会長
	菊地 高	東京都精神障害者団体連合会 事務局長
	永田 直子	社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会 副理事長
学識経験者 (東京都福祉のまちづくり推進協議会)	高橋 儀平	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
	川内 美彦	東洋大学 ライフデザイン学部 教授
	中野 泰志	慶應義塾大学 経済学部 教授
障害者 スポーツ団体	屋敷 優友	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 強化部 強化支援課主査 (日本パラリンピック委員会 事務局)

※第8回アクセシビリティ・ワークショップ開催時点(平成31(2019)年2月)

5 開催状況（設計・整備の進捗に応じ、アクセシビリティ・ワークショップを開催）

※丸数字がワークショップ開催実績



6 検討経緯

6 検討経緯

平成28(2016)年3月から平成31(2019)年2月まで、8回開催し、委員から意見を聴取

※WS: アクセシビリティ・ワークショップの略称

新規施設

(H28.3) 第1回WS : 基本設計図面への意見聴取

有明アリーナ、東京アクアティクスセンター、海の森水上競技場

(H28.7) 第2回WS : 実施設計図面への意見聴取

- ・トイレの機能分散
- ・観客席配置(車いす使用者席・同伴者席、付加アメニティ席)
- ・休憩室・コーナーの配置(カームダウン・クールダウン)

(H29.3) 第3回WS : 実施設計図面への意見聴取

- ・観客席の仕様(手がかり、電動車いすコンセント等)
- ・トイレ設備仕様(フラッシュライト、JISのボタン配置等)
- ・エレベーター閉じ込め対策、音声案内設備

既存施設

(H29.5) 第4回WS : 基本設計図面への意見聴取 今までの意見への対応状況

- ・第1～3回での新規施設における整備方針の議論を踏まえた既存施設の改修方針を説明
(トイレの機能分散・車いす使用者席等の改修配置計画)

(H29.8) 第5回WS : 現地視察を通しての意見聴取

東京体育館

(H29.10) 第6回WS : 実施設計への意見聴取 今までの意見への対応状況

- ・第4・5回における意見を踏まえた実施設計の対応状況を説明(トイレの機能分散や観客席の仕様など)

(H30.6) 第7回WS : サインの考え方に関する意見聴取・現地視察【東京スタジアム】

- ・サインの整備方針
- ・原寸大のサイン見本
- ・東京スタジアムの現地視察

(H31.2) 第8回WS : サイン詳細仕様・検討結果のまとめ

6 検討経緯

各施設において、以下の項目について検討を実施

主な検討項目		
(1) 観客席		
・車いす使用者席や優先席(※)の垂直、水平分散配置 ・車いす使用者のサイトライン確保		
・車いす使用者席、優先席の仕様 ・手すりの設置		
※優先席は、車いすを使用していないが、歩行困難である場合や補助犬ユーザー、足腰・長身・横幅が広い等何らかの理由で配慮された席が必要な人のための席		
(2) トイレ		
・機能の分散配置 ・異性の介助者等への対応		
・個室トイレ内での災害認知 ・トイレ個室の仕様と寸法		
(3) サイン		
・配置、大きさ、書体、コントラスト ・ピクトグラム ・多言語対応		
(4) その他		
・音声案内設備 ・視覚障害者誘導用ブロック ・救護スペース、救護室		
・エレベーターの閉じ込め対策 ・大型スクリーン ・集団補聴設備		

7 検討結果のまとめ

7 検討結果のまとめ（主な整備方針）

アクセシビリティ・ワークショップで委員から出た意見を踏まえて、観客席・トイレ・サインなどの各項目について、整備方針として取りまとめた

観客席	
観客席仕様	○ アクセスしやすい箇所に「車いす使用者席」・「同伴者席」・「優先席(付加アメニティ席)」を設置。同伴者席・優先席は、原則として可動式とし、スペースを用意することで多様な利用形態に対応 ○ 観客席階段には、通路幅員が確保できない場合等を除き、原則、手がかりを設置 ○ 観客席階段の注意喚起の点状ブロックについて、スペースの都合上段鼻との離隔が取りにくい場合は、二列を一行にするなどしてなるべく設置（狭あい部を除く） ○ 階段段鼻にはコントラストを付けて視認性確保 ○ 電動車いす用コンセントを、各サイドの車いす使用者席・同伴者席のうちの一箇所程度に原則設置
サイトライン	○ 車いす使用者席前列の観客が立ち上がった場合でも、車いす使用者の視界を妨げないようにサイトラインを原則確保
分散配置 (車いす使用者席)	○ サイトラインの確保等に留意しつつ、車いす使用者席を会場内に垂直水平分散にて配置。既存施設で避難ルートの確保が困難な場合などは、水平分散を実現

7 検討結果のまとめ（主な整備方針）

トイレ	
機能分散	○ 新規施設には、利用者それぞれに対応した「車いす対応トイレ（大型ベッドを付加したものを含む）」・「異性介助用の男女共用トイレ」・「手すり付トイレ」・「オストメイト対応トイレ」・「乳幼児対応トイレ」を設置 ○ 既存施設でも車いす対応トイレの利用集中を緩和するため、「手すり」・「オストメイト用設備」・「ベビーチェア」・「おむつ交換台」の機能を男子・女子トイレになるべく分散して配置 ○ 既存施設において、スペース等の確保が出来ず、「異性介助用の男女共用トイレ」を設置することが困難な場合は、車いす対応トイレを男女共用トイレとしても利用可能とし、プライバシーを確保できるよう、カーテンをなるべく設置
トイレ 設備仕様	○ 便房には、災害発生を発光で知らせるフラッシュライトを設置 ○ 便房内に新設・改修する操作ボタンの配置は、JIS配列にて統一 ○ 便房扉鍵には使用有無が分かるよう、新設や改修するトイレに表示錠を設置 ○ 便房扉等には、便房内に備わっている機能が分かるようピクトグラムを表示 ○ 便房に新設する手すりは、壁面等と異なる配色にするなど、コントラスト確保に配慮 ○ 新規施設の車いす対応トイレ・男女共用トイレにはカーテンを設置

7 検討結果のまとめ（主な整備方針）

サイン

配置 大きさ 書体

- 施設入口から観客席まで、連続した案内となるよう、施設規模に応じてサインを配置
- 施設内で配置が限られる設備（カームダウン・クールダウンなど）を総合案内板になるべく表示
- 機能分散したトイレ機能（ベビーチェア等）についてもなるべく早い段階で情報が入手できるように、各所にピクトグラムを表示し連続的に案内
- 立ち止まって見るサインや進行方向から見づらい場所に表示するサインの文字等の大きさは、ガイドラインよりも一回り大きい文字サイズとする
- 文字間隔は、誰にとっても表示内容が理解しやすいよう、意味のまとまりを考慮し調整
- 書体の選定に際しては、弱視など様々な方にとって見やすいフォントを選定

多言語対応 ピクトグラム コントラスト

- 日本語・英語・ピクトグラムにより設備等を表示し、名称や英訳は施設間で統一（P14「7 検討結果のまとめ（ピクトグラム・名称）」参照）
- ピクトグラムはJIS規格を採用。基準に定めのないピクトグラムは平成30(2018)年10月に策定された標準案内用図記号等を施設間で統一して使用。ピクトグラムは白黒反転など周辺のコントラストを踏まえ計画
- 色や文字を用いた案内を行う場合、色弱の方が認識しやすいようコントラストを確保
- トイレと更衣室の場所を示すピクトグラムは色や文字を用いる

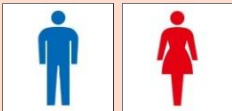
7 検討結果のまとめ（主な整備方針）

その他	
音声案内等	○ 建物出入口に誘導鈴、一般トイレ出入口に簡潔な案内の音声案内を設置（観戦等に影響がある場合を除く） ○ 新規施設には、非常用の誘導音・点滅装置付き誘導灯を各階の階段出口等と建物出口に設置(消防上、設置できない場合を除く)
視覚障害者誘導用ブロック	○ 施設メインエントランスなど建物入口等まで視覚障害者誘導用ブロックを敷設し、以降、施設内は人による誘導等を想定
集団補聴設備	○ 観客席には集団補聴設備(磁気ループ又はF M補聴システム)をなるべく分散して配置
カームダウン・クールダウン	○ 新規施設で付近に救護室がない場合は、一時的に落ち着ける、カームダウン・クールダウンを用意 ○ 既存施設では恒常的な設置が困難な場合に、イベント時、一時的にカームダウン・クールダウンとして利用できる会議室・スペースを活用
エレベーター閉じ込め対策	○ 新設する観客用エレベーターについては、扉へのガラス窓設置(防火上困難な場合等を除く)、監視カメラの設置、かご内外で情報共有できるパネル表示等の仕組みを導入
大型モニター	○ 新設する大型モニターは全ての観客席から明瞭に見られるよう、設置できる位置や箇所数を確保

※ハード整備による対応が難しい点については、施設管理者等による適切な配慮の推進やホームページ等におけるアクセシビリティ情報の発信等ソフト面の取組で補うことができるよう、関係者間で情報共有し、連携していく

7 検討結果のまとめ（ピクトグラム・名称）

<トイレ>

	ピクトグラム	名称 (日英)
1		男子/女子トイレ (Men's/Women's toilet)
2		車いす対応トイレ (Accessible toilet)
3 (※1)		男女共用トイレ (All gender toilet)
4	 (※1)	(簡易型)オストメイト用設備 (Facilities for ostomy)
5 (※1)		介助用ベッド (Care bed)
6 (※1)		ベビーチェア(Baby chair) おむつ交換(Diaper changing table) 着替え台(Changing board)
7	(便房手すり)	手すり (handrail)

<トイレ以外の主なもの>

	ピクトグラム	名称 (日英)
1 (※1)		カームダウン・クールダウン (Calm down, cool down)
2 (※2)		ベビーケアルーム (Baby care room)
3	(車いす使用者席) ※同伴者席含む	車いす使用者席 (Accessible seat)
4	(付加アメニティ席)	優先席 (Priority seat)
5		磁気ループ (Hearing loop)
6 (※3)		更衣室(男性/女性更衣室) (Dressing room (Men/Women))

※1 「公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団」が平成30（2018）年10月に新たに策定した標準案内用図記号（JIS化案として策定され、その後2020年5月20日に JIS Z8210（案内用図記号）に追加）

※2 2020年5月20日に JIS Z8210（案内用図記号）へ追加された「授乳室」のピクトグラムを含め、設備に応じて適切なものを利用する。

※3 競技基準などで名称が定められている場合はこの限りではない。

7 検討結果のまとめ（整備イメージ：エントランス）



7 検討結果のまとめ（整備イメージ：コンコース）

○トイレ入口音声案内

- ・簡潔に案内

○サイン文字

- ・見やすい大きさ
- ・書体・文字間隔は視認性に配慮

○ニーズに対応した新たな設備

○共通したピクトグラムの導入



男女共用トイレ
All gender toilet



カームダウン・クールダウン
Calm down, cool down

○エレベーター閉じ込め対策



かご内を確認しております。
係員がエレベーターに向かっております。

有明アリーナ

7 検討結果のまとめ（整備イメージ：トイレ）

○便房内手すり

- ・背景の壁面との同化を避ける
(事例イメージ)



(一般便房)



(車いす対応トイレ)

○便房扉鍵

- ・使用中かどうか見て分かる
(事例イメージ)



○フラッシュライト設置

- ・災害時に白色にて警告

(事例イメージ)



○トイレ機能の表示

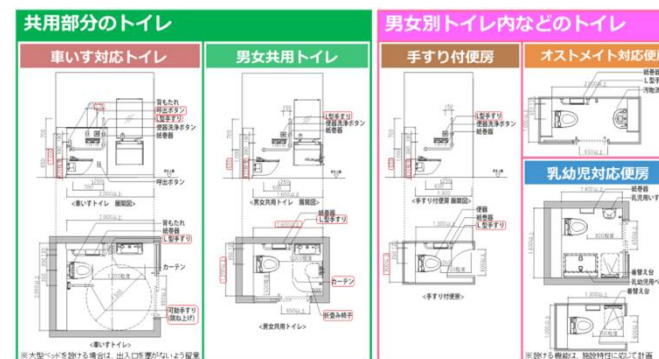
(事例イメージ)

ピクトグラムは
白黒反転など
周辺コントラストを踏まえ計画



○その他

- ・トイレの機能分散



- ・便房内ボタンは原則JIS配列

7 検討結果のまとめ（整備イメージ：観客席）

○ 段鼻

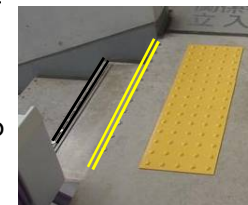
- ・コントラストを確保

○ 手がかかり

- ・通路幅員確保できない場合除き、設置

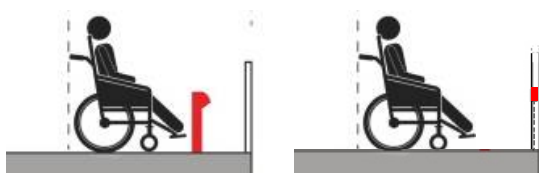
○ 警告ブロック

- ・階段昇降口の幅員が狭い場合でも、ブロックを一行にするなどしてなるべく設置（狭あい部等を除く）



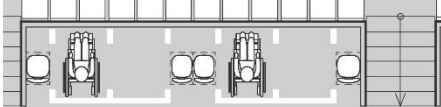
○ 電動車いすコンセント

- ・車いすに合わせた高さ（40cm程度）



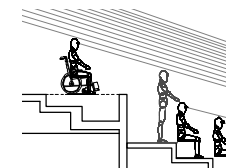
○ 車いす使用者席等の表示

- ・区画枠やプレートで場所・席番号表示



○ その他

- ・車いす使用者席の分散配置
- ・サイトライン確保
- ・磁気ループ席分散配置



8 検討事例

8 検討事例（１）車いす使用者席・同伴者席、優先席

■ アクセシビリティ・ガイドラインにおける記載

- ・ アクセシブルな座席は、様々なエリアに組み入れ、複数の選択が可能なよう配慮する。
- ・ 簡単に移動できるいすを用いれば、車いす使用者が２人かそれ以上の場合は、車いすを横に並べられる。



■ アクセシビリティ・ワークショップにおける意見

「一般の観客が様々な場所で観戦できるのであれば、車いす使用者席の分散配置などにより、障害のある方も同様であるべき」

「車いす使用者の同伴者席は、固定よりも可動にして、車椅子２台に同伴者１名など、様々な対応ができるようにすべき」



■ 車いす使用者席・同伴者席、優先席に反映させた事項

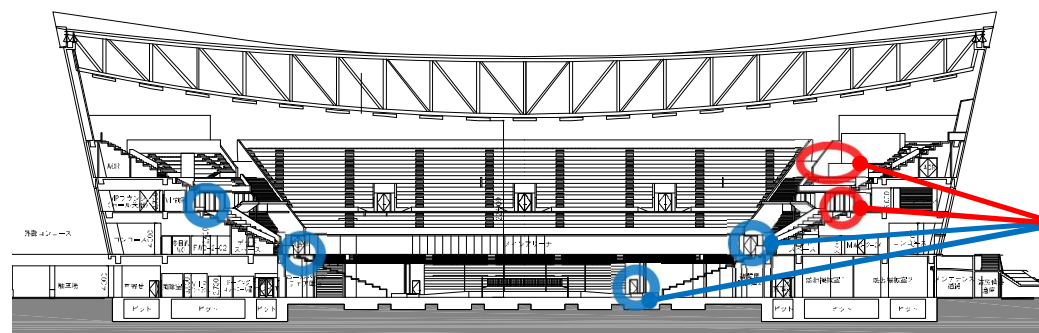
- サイトラインの確保等に留意しつつ、車いす使用者席を垂直水平分散にて配置。既存施設で避難ルートの確保が困難な場合などは、水平分散を実施
- アクセスしやすい箇所に「車いす使用者席」・「同伴者席」・「優先席(付加アメニティ席)」を設置。

同伴者席・優先席は、座席を固定せず、スペースを用意することで多様な利用形態に対応

※ 優先席は、車いすを使用していないが、歩行困難である場合や補助犬ユーザー、足腰・長身・横幅が広い等何らかの理由で配慮された席が必要な人のための席

8 検討事例（１） 車いす使用者席・同伴者席、優先席

○ 新規施設では、避難やサイトラインに留意しながら水平・垂直分散を推進



有明アリーナ

車いす使用者席・同伴者席の配置

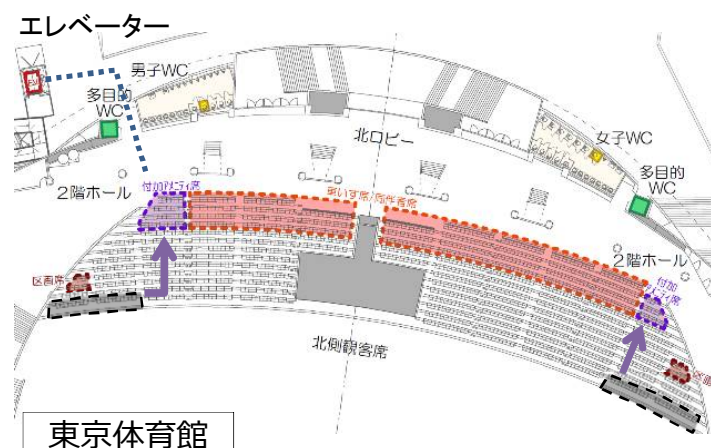
- ・【第1回WS】青部分に水平分散
(1, 2階：避難階)



- ・消防庁等と災害時避難を協議
- ・サイトラインが取れる配置の再検討

- ・【第2回WS】赤部分を追加し垂直分散を強化
(1～4階)

○ 既存施設では、構造等の制約がある中で、望ましい数・配置について議論



東京体育館

優先席の配置

- ・【第4回WS】黒部分
(階段下りた最前列)



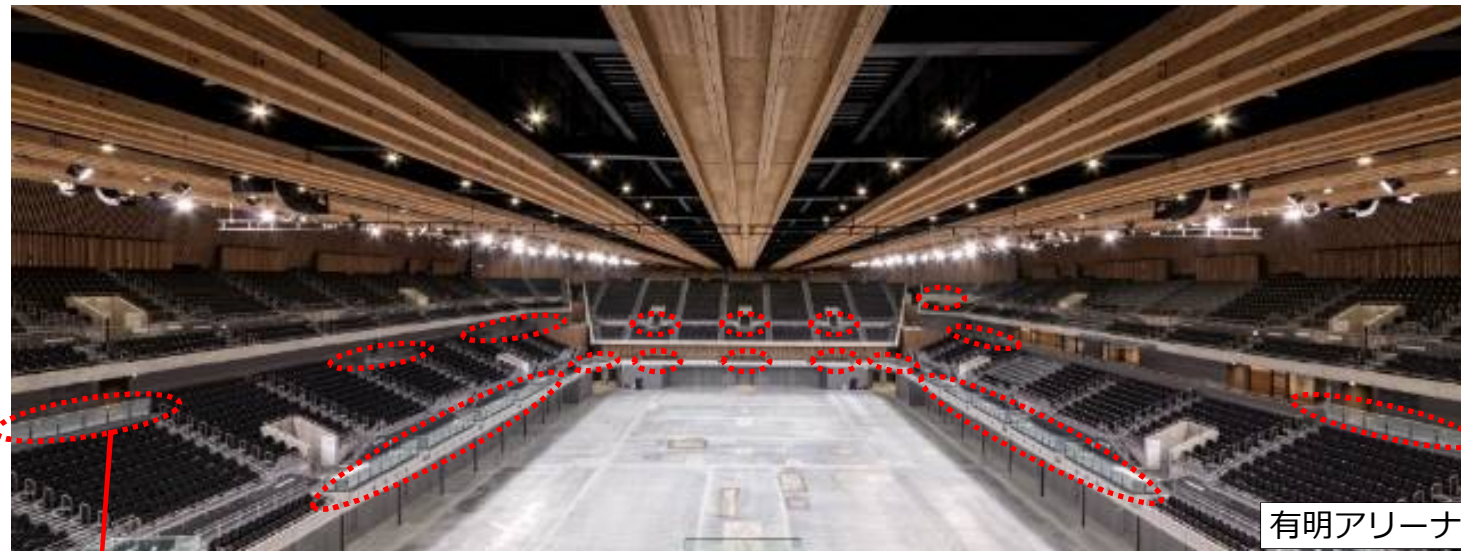
- ・数よりアクセスし易さが重要
【第5回WS(右写真)】



- ・【第6回WS】紫部分に移動
(バリアフリーアクセスできる最上段)
※ 全体の席数は減少

8 検討事例（１）車いす使用者席・同伴者席、優先席

■ 整備事例



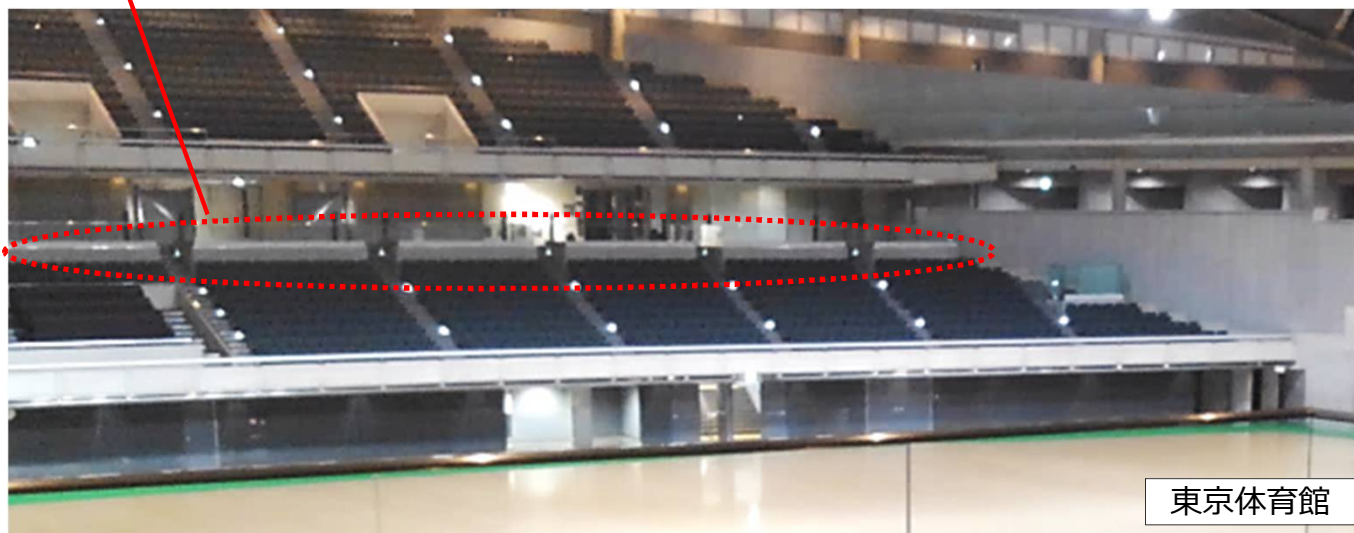
サイトラインの
確保

垂直水平分散

アクセスの
しやすさ

有明アリーナ

車いす使用者席・同伴者席／優先席



東京体育館



東京体育館

8 検討事例（２） トイレ機能の分散配置

■ アクセシビリティ・ガイドラインにおける記載

- ・多機能トイレを補完し、機能を分散して配置できるよう、
男女別のトイレ内に『簡易型多機能便房』『個別機能を備えた便房』を設置する。



■ アクセシビリティ・ワークショップにおける意見

- 「多目的トイレのみに機能を集中させず、狭くても機能別のものを分散してほしい」
- 「同性介助がどうしてもできない場合のために、狭くて機能も少なくてもいいので、異性が一緒に入れるトイレが欲しい」



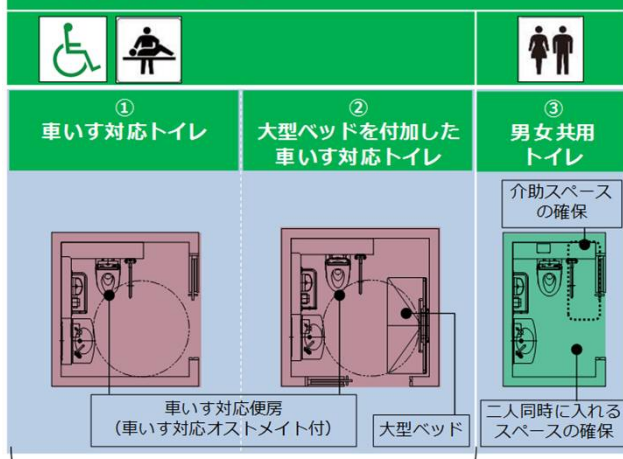
■ トイレ機能の分散配置にあたり反映させた事項

- 新規施設には、利用者それぞれに対応した「車いす対応トイレ（大型ベッドを付加したもの含む）」・「異性介助用の男女共用トイレ」・「手すり付トイレ」・「オストメイト対応トイレ」・「乳幼児対応トイレ」を設置
- 既存施設においては、スペース等の確保が出来ず、「異性介助用の男女共用トイレ」を設置することが困難なため、車いす対応トイレを男女共用トイレとしても利用可能とし、プライバシーを確保できるよう、カーテンをなるべく設置

8 検討事例（２） トイレ機能の分散配置

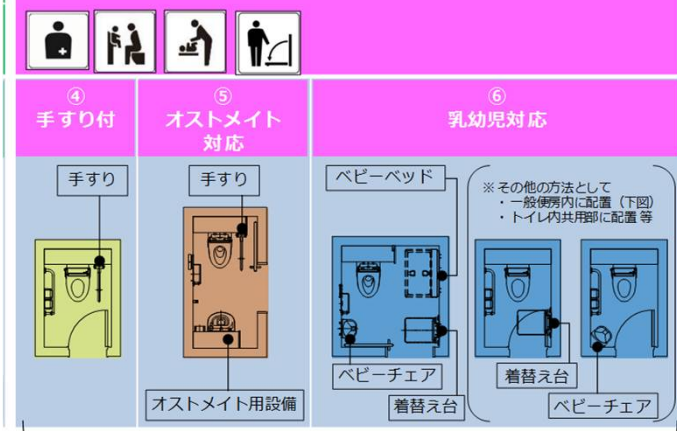
○ 多機能トイレ内の機能を分散

共用部分のトイレ



車いす席 15 席あたり 1 箇所

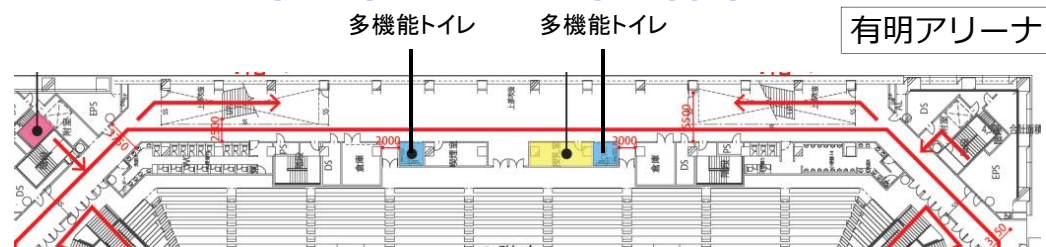
男女別トイレ内などのトイレ



適宜組み合わせ、“一定の利用者のまとまり”を複数のトイレでカバー
(ただし、各一箇所には広めのトイレを用意)

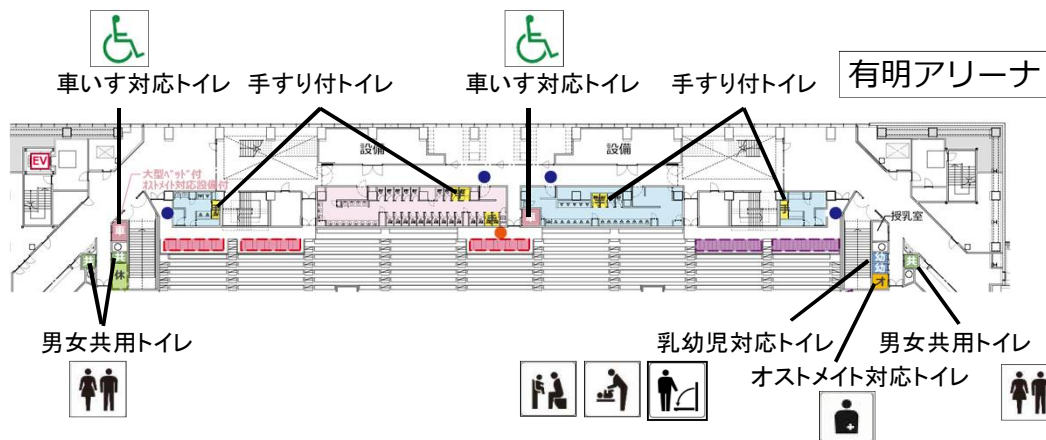
○ 各種トイレを、調整・工夫して建物内にレイアウト

【第一回WS】 多機能トイレ 2 (ガイドラインの基準に準拠)



・同じスペース内に、機能分散したトイレの追加配置を調整

【第二回WS】 車いす対応トイレ 2、男女共用 3、手すり付 5、 オストメイト対応 1、乳幼児対応 2 (トイレの機能分散)



8 検討事例（２） トイレ機能の分散配置

■ 整備事例（有明アリーナ）

＜車いす対応トイレ＞



手すり

カーテン

オストメイト対応設備

介助用ベッド

＜男女共用トイレ＞



カーテン

椅子

＜手すり付トイレ＞



手すり

＜オストメイト対応トイレ＞



オストメイト対応設備

＜乳幼児対応トイレ＞



ベビーチェア



おむつ交換台

着替え台

8 検討事例（3）サイン計画（大きさ、書体、ピクトグラム等）

■ アクセシビリティ・ガイドラインにおける記載

- ・案内板等は高齢者、障害者等に配慮した大きく太い文字を使用し、できるだけ簡潔な表現とする。
- ・どのような表示サインにも国際的に認められたシンボルの利用が望ましい。



■ アクセシビリティ・ワークショップにおける意見

- 「（文字を大きくしても）意味のまとまりを考えて言葉の間隔を空けないと、知的障害者には理解しづらい」
- 「色のコントラストや文字の見え方などについて、弱視や色弱の方の意見も踏まえて計画した方がよい」
- 「トイレは誰が優先という表示はいらず、備わっている機能のピクトを簡潔に表示」



■ サイン計画に反映させた事項

- 立ち止まって見るサインや進行方向から見づらい場所に表示するサインの文字等の大きさは、ガイドラインよりも一回り大きい文字サイズとする。
 - 文字間隔は、誰にとっても表示内容が理解しやすいよう、意味のまとまりを考慮し調整
 - 書体の選定に際しては、弱視など様々な方にとって見やすいフォントを選定
 - 日本語・英語・ピクトグラムにより設備等を表示し、名称や英訳は施設間で統一
 - ピクトグラムは J I S 規格を採用。基準に定めのないピクトグラムは平成30(2018)年10月に策定された標準案内用図記号等（J I S 化案※）を施設間で統一して使用
- ※ 2020年5月20日に JIS Z8210（案内用図記号）に追加

8 検討事例（３） サイン計画（大きさ、書体、ピクトグラム等）

○ 実際に実物を見ながらサイン表示の内容を議論

総合案内板

- ・【第7回WS】既存の総合案内板



- ・現地で大きさや見え方を確認
【第7回WS(上写真)】

- ・【第8回WS】図の大きさ、コントラスト、書体を改善



案内誘導サイン

- ・【第7回WS】なるべく大きい文字サイズ



- ・模型で見え方を確認【第7回WS(右写真)】
- ・大きさをなるべく保ち、文字間隔を調整
- ・弱視の方にも相談して書体を選定

- ・【第8回WS】文字間隔、書体を改善



文字間隔調整

見やすい書体



東京スタジアム

8 検討事例（3）サイン計画（大きさ、書体、ピクトグラム等）

■ 整備事例

大きい文字サイズ

見やすい書体

文字間隔への配慮

日・英・ピクトグラム

見やすい書体

文字間隔への配慮



JISに定めのあるピクトグラム

2018年10月に策定された標準案内用図記号等

日・英・ピクトグラム



8 検討事例（４） その他（観客席、トイレ、建物出入口等の詳細）

■ アクセシビリティ・ガイドラインにおける記載

- ・ 階段部の安全な昇降に配慮して、階段沿いの座席に手かかりを設けることが望ましい。
- ・ 緊急事態の情報を音声及び光によって提供できる設備を備えることが望ましい。
- ・ 表示サインとあわせ、音声案内や音響案内を設置する。
- ・ 救急処置施設は、障害の有無に関わらず、全ての利用者に対応しなければならない。



■ アクセシビリティ・ワークショップにおける意見

「階段の傾斜が急で怖く感じる場所も実際にあるので、配慮してほしい」

「災害の発生を知らせる警報について、聴覚障害者がトイレの個室にいても分かるような方法が必要」

「音声案内や文字による案内等の設備を、視覚障害者にも分かりやすく利用できるよう整備してほしい」

「精神障害者などは、急に体調が悪くなり休みたくなるので、救護室のような場所を客席付近に設けてほしい」



■ 計画に反映させた事項

- 観客席階段には、通路幅員が確保できない場合等を除き、原則、手かかりを設置
- トイレの便房には、災害発生を発光で知らせるフラッシュライトを設置
- 建物出入口に誘導鈴、一般トイレ出入口に簡潔な内容の音声案内を設置
（観戦等に影響がある観客席に面した位置にあるトイレ等を除く）
- 新規施設で付近に救護室がない場合は、カームダウン・クールダウンを用意

8 検討事例（４） その他（観客席、トイレ、建物出入口等の詳細）

○ 構造やスペース、維持管理やコストなどを踏まえ、意見をどう反映するか、個々に議論

観客席手がかり

・【第3回WS】設置方針の提示

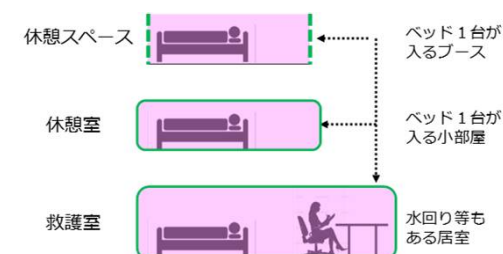
- 各施設で傾斜が異なるものの、法令の範囲内で可能な限り設置することとした。



カームダウン・クールダウン

・【第2回WS】設置方針の提示

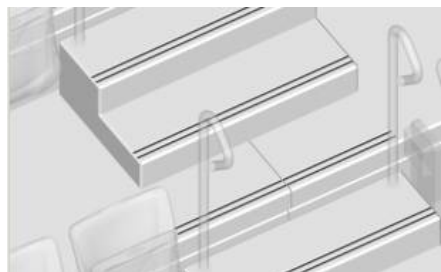
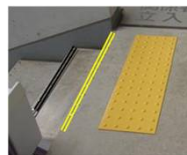
- それほど大きくないもので、部屋ではなく区画された空間でも可能とした。



観客席階段の段鼻

・【第8回WS】施工方針の提示

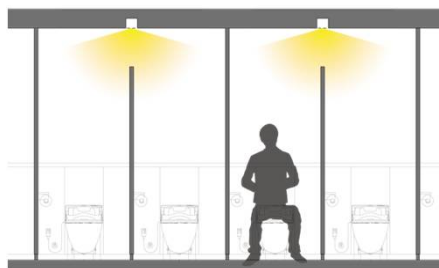
- 駅などを参考に、最初と最後の段には警告色(黄色)も用いながら段鼻を強調表示



フラッシュライト

・【第3回WS】設置方針の提示

- 維持管理や整備コストを考慮し、トイレの便房2ブースで1台を共有するなどの設置方法も可能とした。



音声誘導装置

・【第3回WS】設置方針の提示

- 建物入口、トイレ入口

・【第8回WS】音声内容の確認

- 実際に流す言葉を視覚障害者に確認(言葉の順番、長さ等)



音声案内装置
(センサー式)

アナウンス例

「ピーンポーン。
男性用トイレはこちら、女性用トイレは右側、車いす対応トイレは左側にあります。男性用トイレの触知板はこの下にあります。」

8 検討事例（４） その他（観客席、トイレ、建物出入口等の詳細）

■ 整備事例



有明テニスの森

手がかり



有明テニスの森

カームダウン・クールダウン

東京アクアティクスセンター



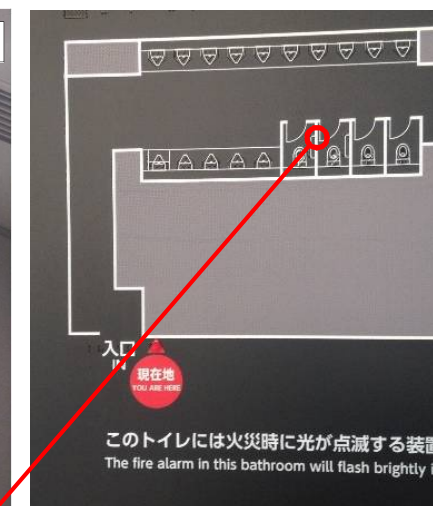
大井ふ頭中央海浜公園
ホッケー競技場

段鼻の強調表示



東京アクアティクスセンター

便房
間仕切り



フラッシュライト



東京体育館

音声誘導装置

9 競技会場の概要

9 競技会場の概要

東京アクアティクスセンター (令和2(2020)年2月竣工)

所在地 江東区辰巳二丁目2番
(辰巳の森海浜公園内)

施設概要 延べ面積：約50,600m²

【レガシー】 建物：地下1階、地上4階
観客席：座席数 約5,000席
(車いす使用者席 52席)
(磁気ループ席 1,174席)

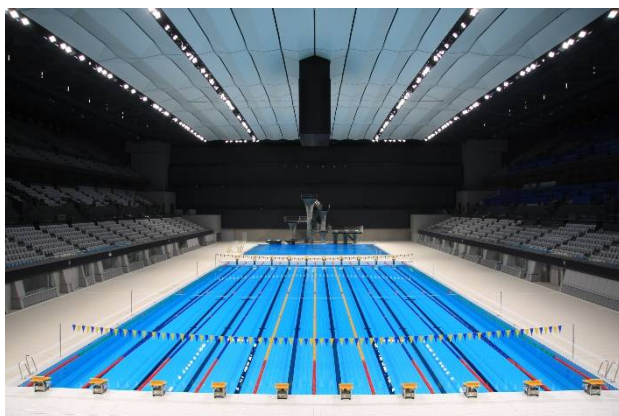
※ 東京2020大会に向け、大会前工事では約15,000席を整備

実施競技 オリンピック／水泳（競泳、飛込、アーティスティックスイミング）
パラリンピック／水泳

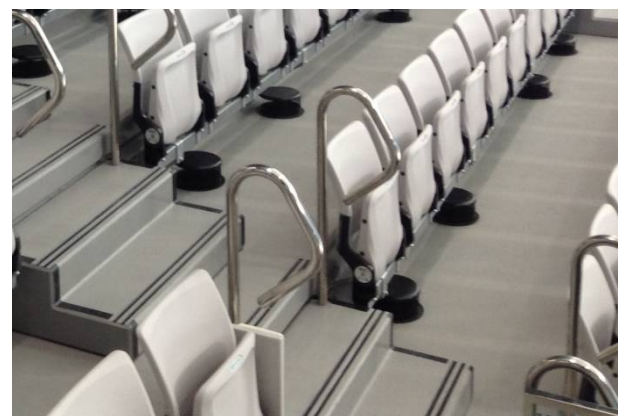


9 競技会場の概要

東京アクアティクスセンター (令和2(2020)年2月竣工)



<メインプール・ダイビングプール>



<観客席>



<車いす使用者席>



<男女共用トイレ>



<乳幼児対応トイレ>

9 競技会場の概要

有明アリーナ（令和元(2019)年12月竣工）

所在地 江東区有明一丁目11番1号

施設概要 延べ面積：約47,200m²

【レガシー】 建物：地上5階

観客席：座席数 約15,000席

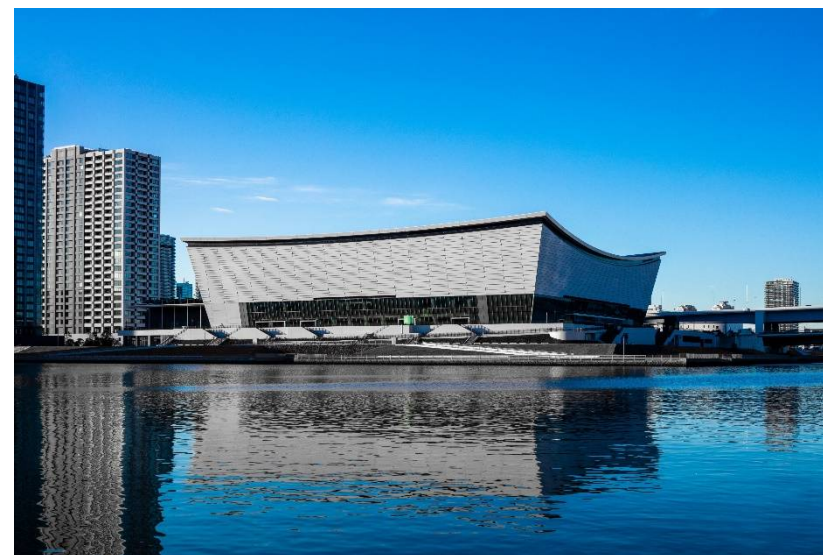
（仮設席含む）

（車いす使用者席 150席）

（磁気ループ席 1,562席）

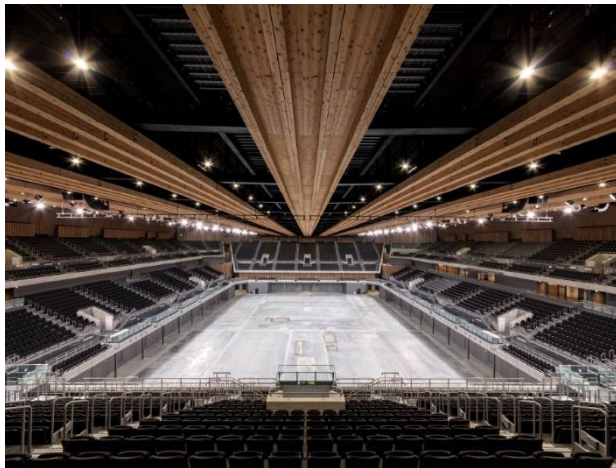
実施競技 オリンピック／バレーボール（バレーボール）

パラリンピック／車いすバスケットボール



9 競技会場の概要

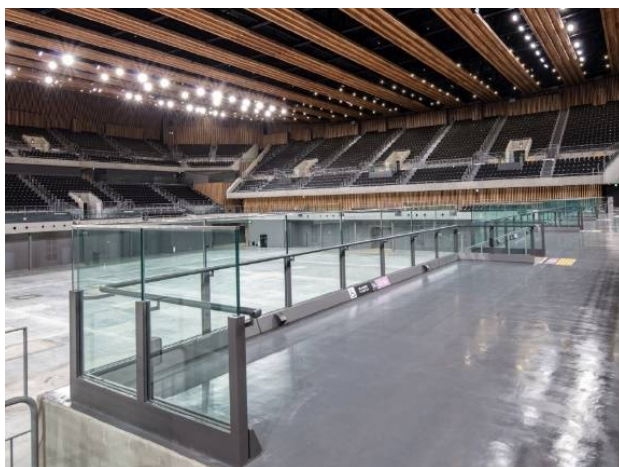
有明アリーナ（令和元(2019)年12月竣工）



<メインアリーナ>



<コンコースの案内サイン>



<車いす使用者席>



<観客席階段>

9 競技会場の概要

海の森水上競技場（令和元(2019)年5月竣工）

所在地 江東区青海三丁目地先

施設概要 競技コース：2,000m×8レーン

【レガシー】 建物：グランドスタンド棟 2階建
艇庫棟 2階建

観客席：座席数 約2,000席

（車いす使用者席 24席）

（集団補聴設備(FM方式) 850席）

実施競技 オリンピック／カヌー（スプリント）、ボート
パラリンピック／カヌー、ボート



9 競技会場の概要

海の森水上競技場（令和元(2019)年5月竣工）



<競技コース>



<エントランス>



<電動車いす充電用コンセント>



<トイレの音声案内>

9 競技会場の概要

カヌー・スラロームセンター (令和元(2019)年5月竣工)

所在地 江戸川区臨海町六丁目1番
(葛西臨海公園隣接地)

施設概要 競技コース：約200m
【レガシー】 (ウォーミングアップコース：約180m)
延べ面積：約47,200m²
観客席：－

実施競技 オリンピック／カヌー (スラローム)



9 競技会場の概要

大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場（令和元(2019)年6月竣工）

所在地 品川区八潮4丁目、大田区東海1丁目
（大井ふ頭中央海浜公園内）

施設概要 主要施設：ショートパイル人工芝グラウンド、
【レガシー】 散水設備、夜間照明など

観客席：○メインピッチ

座席数 約2,600席

（車いす使用者席 26席、磁気ループ席 260席）

○サブピッチ

座席数 約500席

（車いす使用者席 5席、磁気ループ席 80席）

実施競技 オリンピック／ホッケー



9 競技会場の概要

大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場（令和元(2019)年6月竣工）



＜メインピッチ＞



＜案内サイン＞



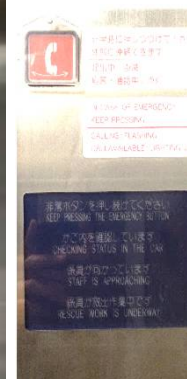
＜男女共用トイレ＞



＜観客席＞



＜エレベーター＞



9 競技会場の概要

夢の島公園アーチェリー場（平成31(2019)年2月竣工）

所在地 江東区夢の島二丁目
(都立夢の島公園)

施設概要 主要施設：芝生広場

【レガシー】 (約18,000m²、一部築山)
遮熱性舗装 (約3,500m²)
日よけ屋根、倉庫
観客席：－

実施競技 オリンピック／アーチェリー
パラリンピック／アーチェリー



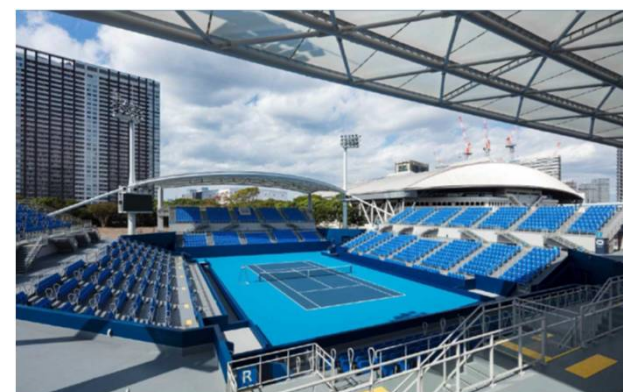
9 競技会場の概要

有明テニスの森

所在地	江東区有明二丁目（有明テニスの森公園）
施設概要	主要施設：ハードコート／32面 砂入り人工芝コート／16面 有明コロシアム／1棟など
【レガシー】	観客席：○有明コロシアム 座席数 約9,700席 (車いす使用者席 98席) (磁気ループ席 1,234席) ○ショーコート 座席数 約3,000席 (車いす使用者席 36席) (磁気ループ席 270席)
実施競技	オリンピック／テニス、パラリンピック／車いすテニス



<有明コロシアム>



<ショーコート>

9 競技会場の概要

有明テニスの森



<コロシアム>



<カームダウン・クールダウン>



<車いす使用者席>



<電動車いす充電用コンセント>

9 競技会場の概要

東京体育館

所在地 渋谷区千駄ヶ谷一丁目17番1号

施設概要 延べ面積：約4万㎡

【レガシー】 建物：地下2階、地上3階
観客席：座席数 5,308席、
(車いす使用者席 55席)
(集団補聴設備はFM方式を導入)



実施競技 オリンピック／卓球
パラリンピック／卓球

9 競技会場の概要

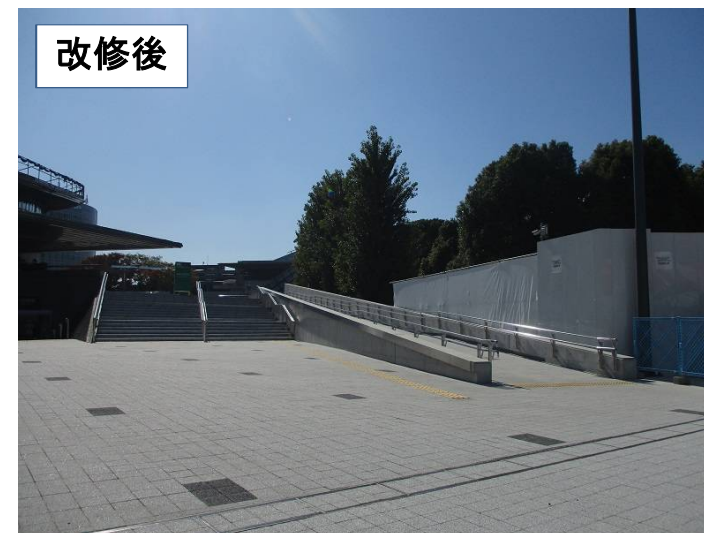
東京体育館 主な改修事例



車いす使用者席
の増設



スロープの設置



9 競技会場の概要

東京体育館 主な改修事例



新規エレベーター設置

車いす対応エレベーター(24人乗)を新規設置。

エレベーター内の緊急時通報システムは、聴覚障害者に対応し、文字で分かるよう工夫を行っている。



9 競技会場の概要

東京辰巳国際水泳場

所在地 江東区辰巳2丁目8番10号

施設概要 延べ面積：約 2 万㎡

【レガシー】 建物：地下2階、地上3階

観客席：座席数 3,589席

(車いす使用者席 36席)

(集団補聴設備(FM方式)席 176席)

実施競技 オリンピック／水泳（水球）



9 競技会場の概要

東京辰巳国際水泳場 主な改修事例



車いす使用者席の
増設
車いす使用者席の
表示



点状ブロックの設置
案内サインの設置



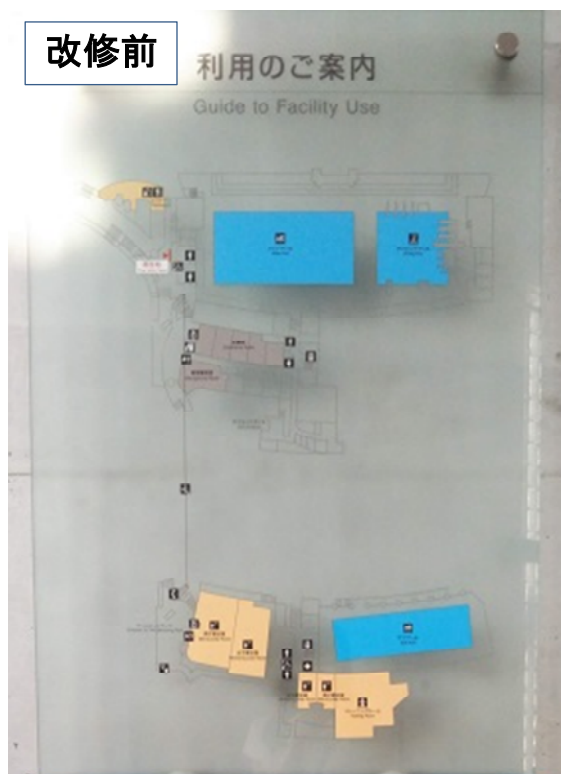
9 競技会場の概要

東京辰巳国際水泳場 主な改修事例

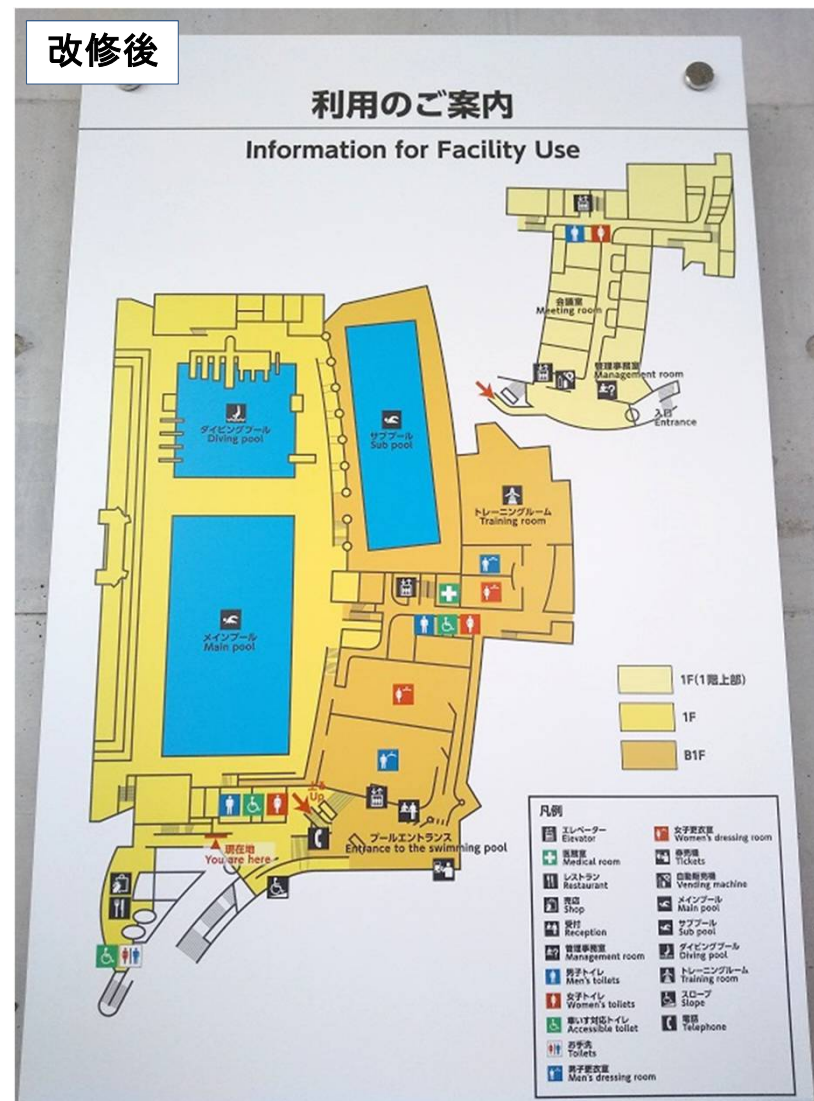
サイン改修

視認性を考慮し、図・文字を大きくするとともに、コントラストを確保したサインに改修。

改修前



改修後



9 競技会場の概要

東京スタジアム

所在地 調布市西町376番地3

施設概要 延べ面積：約9万m²

【レガシー】 建物：地下1階、地上5階
観客席：座席数 48,013席
(車いす使用者席 336席)
(磁気ループ席 198席)



実施競技 オリンピック／サッカー、ラグビー、
近代五種[水泳,フェンシング ボーナストラウンド(エペ),
馬術,レーザーラン]

9 競技会場の概要

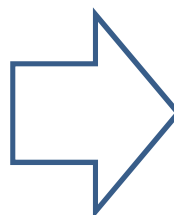
東京スタジアム 主な改修事例



車いす使用者席
の増設



段鼻のコントラスト



9 競技会場の概要

東京スタジアム 主な改修事例

トイレ改修

- ・機能分散
- ・ピクトグラムを表示



9 競技会場の概要

武蔵野の森総合スポーツプラザ

所在地 調布市西町290番11

施設概要 延べ面積：約5万m²

【レガシー】 建物：地下1階、地上4階

観客席：座席数 5,933席

(車いす使用者席 72席)

(磁気ループ席：92席)

実施競技 オリンピック／バドミントン、近代五種[フェンシング ランキングラウンド(エペ)]
パラリンピック／車いすバスケットボール



9 競技会場の概要

武蔵野の森総合スポーツプラザ



＜メインアリーナ＞



＜天吊りサイン＞



＜車いす使用者席＞



＜手すり付きトイレ＞

参考資料

【参考】観客席数・トイレ配置数（新規施設）

		東京アクアティクスセンター	有明アリーナ ※2	海の森水上競技場	カヌー・スラロームセンター ※3・4	大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場※3		有明テニスの森公園 テニス施設	
						メインピッチ	サブピッチ	コロシウム※5	ショーコート
観客席									
総座席数(レガシー)		約5,000席 (観客席：2階・3階)	約15,000席 (観客席：1階～4階)	約2,000席 (観客席：1階・2階)		約2,600席 (観客席：2階・3階)	約500席 (観客席：2階・3階)	約9,700席 (観客席：1階～3階)	約3,000席 (観客席：1階・2階)
車いす使用者席 (席数) (配置)		計 52席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 150席 (1.0%) 1～4階席に配置	計 24席 (1.2%) 1・2階席に配置		計 26席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 5席 (1.0%) 2階席に配置	計 98席 (1.0%) 1・2階席に配置	計 36席 (1.2%) 1・2階席に配置
同伴者席 (席数) (配置)		計 52席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 150席 (1.0%) 1～4階席に配置	計 24席 (1.2%) 1・2階席に配置		計 26席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 5席 (1.0%) 2階席に配置	計 98席 (1.0%) 1・2階席に配置	計 36席 (1.2%) 1・2階席に配置
優先席 【付加アメニティ席】 (席数) (配置)		計 52席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 157席 (1.0%) 2～4階席に配置	計 24席 (1.2%) 1・2階席に配置		計 26席 (1.0%) 2・3階席に配置	計 5席 (1.0%) 2階席に配置	計 102席 (1.0%) 1・2階席に配置	計 36席 (1.2%) 1・2階席に配置
磁気ループ席 (席数) (配置)		計 1,174席 2・3階席に配置	計 1,562席 2～4階席に配置	計 850席 1・2階席に配置 (FM方式)		計 260席 2階席に配置	計 80席 2階席に配置	計 1,234席 2～4階席に配置	計 270席 2・3階席に配置
トイレ									
機能分散状況(観客・関係者用含む)									
車いす対応トイレ設置数	19	25	16	3	9	4	15	6	
男女共用トイレ設置数	5	14	2	3	4	2	4	2	
手すり付トイレ設置数※1	20	86	33	8	25	6	39	27	
オストメイト対応トイレ設置数※1	16	15	2	1	3	4	10	2	
乳幼児対応トイレ設置数※1	19	11	6	1	13	16	33	9	

※1 このほか、車いす対応トイレ又は男女共用トイレ内に設置されている場合もあり。

※2 観客席数には仮設席を含む。

※3 パラリンピック会場としては利用予定なし。オリンピック会場としてのみ利用

※4 カヌースラロームセンターは、東京2020大会時の観客席の設置は仮設整備のため、恒設整備はなし。

※5 有明コロシウムは既存施設であるが、有明テニスの森公園テニス施設として、新規施設と一体で工事を進めているため、本表に記載

※ 夢の島公園アーチェリー場は、東京2020大会時は予選会場となるため、観客席等の設置はなし。(本戦会場となる隣接する陸上競技場には観客席を仮設整備)

【参考】Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン（座席比率概要）

車いす使用者席 : オリンピック大会会場 ⇒ 0.75%
 同伴者席 : 車いす座席と同比率で設置

パラリンピック大会会場 ⇒ 1.0～1.2%
 優先席 : 1%用意することが望ましい。

【参考】観客席数・トイレ配置数（既存施設）

	東京体育館 (メインアリーナ)		東京辰巳国際水泳場 ※		東京スタジアム ※ (スタジアム棟)		武蔵野の森総合スポーツプラザ (メインアリーナ)	
観客席								
	改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後	改修前	改修後
総座席数(レガシー)	6,030席 (観客席：2階・3階)	5,308席 (観客席：2階・3階)	3,633席 (観客席：2階～3階)	3,589席 (観客席：2階・3階)	49,930席 観客席： 上・下層スタンド	48,013席 観客席： 上・下層スタンド	6,662席 (観客席：3階・4階)	5,933席 (観客席：3階・4階)
車いす使用者席 (席数) (配置)	計 29席 2階席に配置	計 55席 (1.03%) 2階席に配置	計 20席 2階席に設置	計 36席 (1.00%) 2階席に配置	計 394席 下層スタンドに配置	計 336席 (0.69%) 下層スタンドに配置	計 1席 3階席に配置	計 72席 (1.21%) 3階席に配置
同伴者席 (席数) (配置)	設置なし	計 55席 (1.03%) 2階席に配置	設置なし	計 36席 (1.00%) 2階席に配置	設置なし	計 328席 (0.68%) 下層スタンドに配置	設置なし	計 58席 (0.97%) 3階席に配置
優先席【付加アメニティ 席】 (席数) (配置)	設置なし	計 12席 (0.22%) 2階席に配置	設置なし	計 14席 (0.39%) 2階席に配置	設置なし	計 72席 (0.14%) 下層スタンドに配置	設置なし	計 62席 (1.04%) 3階・4階席に配置
磁気ループ席 (席数) (配置)	設置なし	— (FM方式を導入)	約 170席 (FM方式)	計 176席 2階席に配置 (FM方式)	計 224席 下層スタンドに配置	計 198席 下層スタンドに配置	計 138席 3階席に配置	計 92席 3階席に配置
トイレ								
機能分散状況(観客・関係者用含む)								
車いす対応トイレ設置数	11	11	5	10	15	26	9	9
	【改修後】 車いす対応トイレの利用集中を緩和する為、「手すり」・「オストメイト」・「ベビーチェア」・「おむつ交換台」の機能を男子・女子トイレになるべく分散して配置。「異性介助用の男女共用トイレ」が、スペース等の確保が出来ず設置困難なため、車いす対応トイレを男女共用トイレとしても利用可能とし、プライバシーを確保できるよう、カーテンを設置							

※ パラリンピック会場としては利用予定なし。オリンピック会場としてのみ利用

【参考】Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン（座席比率概要）

車いす使用者席 : オリンピック大会会場 ⇒ 0.75%
 同伴者席 : 車いす座席と同比率で設置

パラリンピック大会会場 ⇒ 1.0～1.2%
 優先席 : 1%用意することが望ましい。